



挨拶する桂川孝裕新会長(亀岡市長)

役員改選では、新会長に桂川孝裕・亀岡市長、新監事に山崎善也・綾部市長が就任し、平成7年から15期30年という長きにわたり会長をお世話になつた綾部市長から、亀岡市長に会長が引き継がれました。その他の副会長・理事・監事については再任されました。

京都府亀岡市 桂川市長が会長に就任 ～令和7年度総会を開催～

世界連邦宣言自治体全国協議会の令和7年度総会を6月5日、東京都新宿区の日本青年館ホテルで開催しました。役員改選を行い、会長に京都府亀岡市の桂川孝裕市長が新たに就任、副会長には、東京都武藏野市の小美濃安弘市長、石川県金沢市の村山卓市長がそれぞれ再任しました。

総会は会場とオンラインのハイブリッド方式で実施し、15自治体32人が参加しました。世界連邦推進日本協議会の大橋光夫会長をはじめ世界連邦連携会長をはじめ世界連邦連携団体が来賓として出席される中、令和6年度事業・決算・監査報告と令和7年度事業計画案・予算案、役員改選案を提案し、いずれも原案どおり承認されました。

また、新たに就任した桂川市長は、亀岡市が綾部市に次いで2番目に世界連邦都市宣言を行ったことに触れ、「紛争が絶えない今こそ、自治体協議会の役割が大事であり、裾野を広げて、自治体間の連携と学びを広げていこう」と述べました。

役員自治体

役職名	自治体名
会長	亀岡市(京都府)
副会長	武藏野市(東京都)
	金沢市(石川県)
	成田市(千葉県)
	青梅市(東京都)
	小金井市(東京都)
	福生市(東京都)
	輪島市(石川県)
	宇治市(京都府)
	兵庫県(兵庫県)
	神戸市(兵庫県)
	岡山市(岡山県)
	広島市(広島県)
	松山市(愛媛県)
	新居浜市(愛媛県)
理事	三鷹市(東京都)
監事	綾部市(京都府)

*首長名は省略 (任期: 令和9年度総会まで)

亀岡市長の会長就任に伴い、今後、亀岡市が務局を務めさせていただきます。前任の綾部市の想いを受け継ぎ、世界連邦運動推進のため、誠心誠意取り組んでいきます。前田の皆さんのご理解、ご協力をよろしくお願いします。

いま、一つの世界を

自治体協新聞

発行
世界連邦宣言自治体
全 国 協 議 会
(事務局 = 京都府亀岡市)
〒621-8501 亀岡市安町野々畠8
TEL (0771)25-5001
FAX (0771)25-0600

綾部市長からは、15期30年を振り返り関係者の皆さんへの感謝の言葉と、新たな体制で当協議会の事業を力強く推し進めてほしいとの激励の言葉がありました。

また、新たに就任した桂川市長は、亀岡市が綾部市に次いで2番目に世界連邦都市宣言を行ったことに触れ、「紛争が絶えない今こそ、自治体協議会の役割が大事であり、裾野を広げて、自治体間の連携と学びを広げていこう」と述べました。

国際法には限界があり、地球規模の法の支配を実現するための道を探求することが世界連邦運動であるということ、

本会議委員会の役割と世界情勢」と題し、講演をいただきました。

また、今年は国連創設80周年にあたることから、新たな世界連邦国際決議に向けた調整をされていることなどを報告いたしました。

また、世界連邦日本国際委員会としては、いかに国際連合をより良いものにするかといたしました。

また、世界連邦日本国際裁判所(IICC)への日本政府加入実現に至ったということをお話しいただきました。



谷本事務局次長の講演

新たな世界連邦国際決議に向けて



桂川会長が世界連邦日本大会で挨拶

第36回世界連邦日本大会が開催されました

「トランプ時代における グローバル・ガバナンス」

令和7年10月5日、世界連邦日本大会が東京のJICAで開催されました。

近年、新型コロナウイルスの影響等で開催が見送られていましたこともあり、世界連邦日本大会の開催は令和元年の東京大会以来、約6年ぶりとなりました。

本大会では、まず世界連邦運動協会の大橋光夫会長が、開会の辞と大会長挨拶を述べられました。そして、世界連邦宣言自治体全国協議会の桂川孝裕会長が挨拶を行った後、

世界連邦日本宗教委員会の橋本伸作監事の先導により、平和な社会の実現と、多くの尊い命への追悼の意を込めて、参加者全員で黙祷を行いました。

続いて、世界連邦日本国会議員会の顧問であり、元内閣総理大臣の岸田文雄氏からのビデオメッセージが上映されました。

岸田氏はメッセージの中で、国際社会の分断と対立が深刻化しているとの認識を示され、トランプ大統領の2期目政権で世界のパラダイムが大きく変化していること、各国において排外主義・排他主義が広がっていることに強い危機感を表明されました。そして、

このような状況の中、国連憲章など求心力のあるビジョンを共有し、「人間の尊厳が守られる世界」という安全保障の原点に立ち返るべきであると強調されました。そして、価値や原則を共有する国々との結束を強めるとともに、そ

れ以外の国々とも連携を強化していくべきであると提言されました。

基調講演「国際情勢と日本」

その後、外務省顧問であり、トランプ大統領1期目の際の米国駐箇特命全権大使である杉山晋輔氏から基調講演がありました。

杉山氏は、トランプ大統領の行動の原点はアメリカ社会の伝統的な支配層に対する徹底的な反感であり、それがトランプ大統領の人気の背景となっていること、そして、憲法上3選ができるないことから、1期目に遠慮してできなかつたことを、2期目政権で全て実行に移す決意とスピード感を持つていると指摘されました。

杉山晋輔氏による基調講演

して、日本はどのように対応していくべきなのか、大きな示唆をいただきました。

そのシステムを破壊しようと、同時に、台湾との経済関係などを抜本的に強化し、地域における戦略的なカードを持つべきだと提言されました。

杉山晋輔氏と世界連邦運動協会
木戸寛孝事務総長との対談

大会宣言を採択

対談終了後、世界連邦日本宗教委員会の田中朋清事務局長が今大会の大会宣言文を読み上げ、参加者からの拍手とともに大会宣言が採択されました。

そして、世界連邦文化教育推進協議会の宍野史生理事長のご挨拶により、大会は閉会となりました。

今回の大会宣言文では、紛争・難民・核拡散・環境問題など「国家を超えた課題は國家を超えた制度と国際協力によってこそ解決しうるもの」であるとし、世界連邦創設に向けた決意を改めて宣言しています。人間の尊厳が守られる世界を構築していくため、関係団体が一丸となつて取り組んでいきましょう。

杉山晋輔氏による基調講演

また、中国との関係において、間を取り持つべき

ては、日本が米中の「狭間にあって、間を取り持つべき」という表現は誤りで、日本にとての同盟国はアメリカのみであり、その原則を踏まえ

た上で中国との対話を継続すると同時に、台湾との経済関係などを抜本的に強化し、地域における戦略的なカードを持つべきだと提言されました。

そのシステムを破壊しようと、同時に、台湾との経済関係などを抜本的に強化し、地域における戦略的なカードを持つべきだと提言されました。

そのシステムを破壊しようと、同時に、台湾との経済関係などを抜本的に強化し、地域における戦略的なカードを持つべきだと提言されました。